

日ロ混住時代の写真「囲碁の女の子」

く 択捉島出身の張間 葉子さん く



(張間葉子さん提供)



(「千の島を巡る1946年のクルル探検」より引用)

左の写真集に掲載されている写真と比べると、張間さんの顔がはっきり写っており、また、右側のロシア人の左手の位置が変化し、腰を浮かしているという違いがある



張間葉子さんは、一九四七年九月択捉島を強制退去となった際に、お父さんが島から持ち出した二枚の写真を大切に保管してました。引き揚げ後、葉子さんが小学校に上がる時にお母さんがアルバムを作り、二枚の写真をアルバムに入れてくれて「択捉島の留別小学校の裁縫室でロシア人が撮ってくれたもので、お父さんが島から持ち帰った写真だよ」と教えてくれたそうです。

当時、留別国民学校の校長を務めていた父に、よくロシア人が訪ねてきていました。父は若い頃から囲碁が好きで、小学校にあつた裁縫室で日本の軍医とよく囲碁をしていました。おそらく、写真のロシア人に父が囲碁を教えたのではないかと思えます。囲碁だけでなく音楽も大好きで、当時貴重だったクラシックのレコードを何百枚も持っていました。全部ロシア人に取りられてしまいました。それがよっぽど悔しかったので、引き揚げてきてから、同じ話を何度聞かされたことか分かりません。

今にして思うと、もつと父や母から留別での暮らしぶりや島のことを聞いておけば良かったと後悔しています。島の記憶がほとんどない私にとって、ロシア人が撮った二枚の写真と、父が残した「ロシヤ進駐軍留別上陸記録」と題した手記が、私と択捉島留別をつながり留めてくれる唯一のものとなりました。



(張間さんが大切に保管している2枚の写真)